

あつし塾長の

子のやる気 親の気づき

〇〇2



私が塾を始めたのは1989 (平成元)年です。この春で丸21年になります。

小、中、高校生の学習指導を行ってきましたが、最近、特にこの10年あまりの子どもたちは本当に変わりました。皆さまもご存じの「ゆとり教育」の世代

現状

にあたりますが、男の子が涙を浮かべて泣くのです。中学2年生も中3生も。ある時は野球部だったり、ある時は陸上部だったり…。先日もある男の子が泣いて「塾を辞めたい」と。「塾は悪くない。でも辛いんだ。家に行きたい」と言って体格のよい男子中学生が涙を浮かべるのです。

危機感って、夢って？

最近の子「意欲わかない」

昔から学校の勉強は「将来の夢ってどうつまらなかつたし、眠くなるものと相場は決まっていたような気がします。現に塾を始めるところは「なぜ勉強なんかないかならぬの？」という質問をよく受けました。しかし、この数年、子どもたちの質問が変わって来ました。

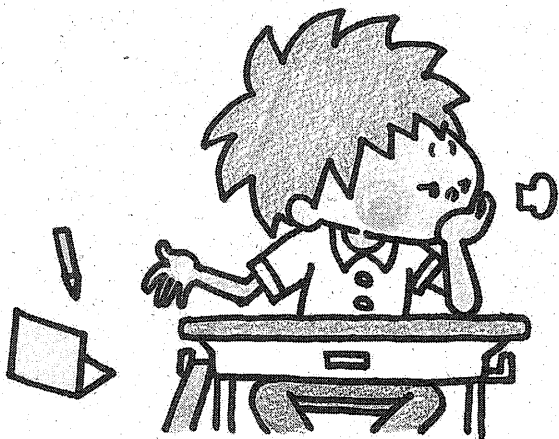
先日も、中3男子から「やる気ってどうすればいいんですか？」と聞かれました。また、別の子どもたちから「受験まで残りわずかですが危機感がありません。危機感ってどうやって感じられるんですか？」という質問

や「将来の夢ってどうやって見つかりますか？」という質問が寄せられています。

どうも最近の子どもたちは「やれない事実」を「やれない自分がかわいそう」で片付けてしまい、「やるかやらないかの現実」を先送りし、真顔で危機感の「感じ方」や将来の夢の「抱き方」を求めてくる傾向にあるような気がします。

そんな、親の世代とは異質の「ゆとり教育世代の子どもの文化」をこの章では探って行きたいと思えます。

(畑山篤志 学塾塾長)



by yoriko

教育

ニュース なぜなに

のため前年度より2割近く減る見通しです。それを補うために、全収入の約48%に相当する44兆円を国債でまかなうことにしました。国債発行額は史上最高で、税金の収入(税込)を上回るのも戦後初めてです。



案について記者会見する

子どもたち

命の大切さ学んで

——学校で、家庭で、魚飼育を